1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1590200067		
法人名	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホームけやきの杜		
所在地	新潟県長岡市上野町1059番地2 (電話) 0258-29-7363		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	8月26日

【情報提供票より】(21 年 7 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人、非常勤 1人、常勤換算 7.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階	建ての	4 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	18,840 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (21 年 7 月現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.6 歳	最低 81 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三島病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの母体施設としてケアハウスと通所介護事業所が平成12年に開設され、そして、平成19年に4階に増築する形でホームが開設された。よって、地域の社会資源として近隣住民にホームが理解され、地域の協力体制が得られやすい環境にある。施設は閑静な住宅街に位置し、大きな庭園がある。ホームの窓からは田畑の緑が一面に見渡せ、遠くに弥彦山も臨め、豊かな自然を感じながら生活を送ることができる。ホームの理念や年度計画の検討段階では利用者も会議に参加して協議し、利用者から寄せられた「皆の和を大切にしてほしい」という意見をホームの目標の一つに加える等、利用者の望む生活の実現に向けて取り組んでいる。また、利用者が入居前から参加していたサークル活動を継続できるように支援したり、新たに地域の行事や集まりに参加するなど、個々の利用者が地域の一員として日々暮らしていけるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果については改善計画を作成し、サービスの質の向上に計画的に取り組んでいる。「同業者との交流を通じた向上」では、1ヶ月に1回法人内でのグループホーム部会を開催することとし、意見交換や勉強会など法人内の他の事業所との交流を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価をサービスの質の確保・向上の機会としてとらえ、自己評価と外部評価それぞれを実施した後は、明らかになった課題について改善計画を作成し、職員全体で計画的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>ホームからは現状報告や提案・相談を委員に行い、委員からの助言・要望等をホームの運営に反映させている。会議での提案やアイデアは、防災活動や広報誌などの形で実現されており、運営推進会議がホームの運営に欠くことの出来ないものとして定着している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時や必要があれば随時電話連絡を行い、利用者の日々の暮らしがぶりや体調の変化等について家族に報告している。また、日常生活の写真を掲載したホームの広報誌を送付したり、日々の生活の様子をお知らせする手紙を定期的に添えるなど工夫している。面会時や、家族も参加する行事、年1回の家族との意見交換会、運営推進会議等で家族の意見や要望を聞き、職員間で協議して実践できることは運営に取り入れるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>同一建物内のケアハウスの利用者や近隣の託児所と交流している。地域の老人会の集まりなどにも利用者が参加したり、地域住民がボランティアに来てくれるなど、交流が持たれている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、利用者や職員・地域との「和」と「一人ひとり」を大切にしたい安心・安全・幸せな暮らしを目指すとの目標を掲げている。この目標は、職員だけでなく利用者も交えて話し合い、利用者の意見を取り入れて定めたものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全職員で定めたものであり、年に1回は見直しの機会を設けている。また、利用者一人ひとりのケアや生活支援の場面においても理念を意識して検討し、理念の具現化に努めている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は、家族や来訪者にも見やすいよう掲示し、また、地域のお祭りなど機会がある度にホームの取り組みや大切にしていることなどの紹介や説明をしている。複合施設全体での広報誌に加え、ホーム独自の広報誌「ほのぼの日和」も発行・配布し、ホームの理念や役割の周知啓発に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同一建物内のケアハウスの利用者や近隣の託児所と交流している。地域の老人会の集まりなどにも利用者が参加したり、地域住民がボランティアに来てくれるなど、交流が持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価をサービスの質の確保・向上の機会としてとらえ、自己評価と外部評価それぞれを実施した後は、明らかになった課題について改善計画を作成し、職員全体で計画的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからは現状報告や提案・相談を委員に行い、委員からの助言・要望等をホームの運営に反映させている。会議での提案やアイデアは、防災活動や広報誌などの形で実現されており、運営推進会議がホームの運営に欠くことのないものとして定着している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者から、市の担当者へ随時質問や相談をしている。また、市が派遣する介護相談員を月2回受け入れてホームのサービス向上に活かすとともに、ホームの状況を市にも理解してもらうようにしている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関係法令への理解を深める内部研修会を開催し、職員に虐待防止について周知している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要があれば随時電話連絡を行い、利用者の日々の暮らしぶりや体調の変化等について家族に報告している。また、日常生活の写真を掲載したホームの広報誌を送付したり、日々の生活の様子をお知らせする手紙を定期的に添えるなど工夫している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、家族も参加する行事、年1回の家族との意見交換会、運営推進会議等において、家族の意見や要望を聞いている。把握した意見や要望は職員間で協議し、実践できることは運営に取り入れるように努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや、職員が一堂に会するグループホーム会議や併設施設全体の委員会等において、運営に対する職員の意見や要望を聞き取り、方針や予算等に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成21年6月に法人内の他ホームの開設のため、4名の職員が異動となったが、新しく異動してくる職員を半年前から勤務させて利用者との関係づくりをし、利用者の生活に影響を与えないよう配慮した。また、異動がある際には利用者や家族にお知らせしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	複合施設全体として感染症・急変時・基礎介護など各種マニュアルが整備され、また、必要に応じてホーム独自のマニュアルも整備されている。1年に1回の定期的な見直しが行われ、適宜追加・改正されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場や経験、習熟度などに応じた研修を、内部できめ細かに実施している。法人が主催する研修も多く、多種多様な研修会、勉強会等が企画されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのグループホーム部会が1ヶ月に1回開催されている。意見交換や勉強会を通じて法人内の他ホームとの交流を図り、サービスの質の向上につなげている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の「和」やチームワークを大切にしており、職員同士の情報交換はこまめに行われている。目的意識や課題を共有してケアに取り組むことで、不安や悩みの軽減につながっている。複合施設全体の施設長やホーム管理者にも、職員が意見や悩み等を言いやすい雰囲気がつくられている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者、家族の見学は常時受け付けている。また、併設の他サービス利用を経て入居される方も多く、併設サービス利用時にお試しでホームで過ごしてもらうなど、ホームの雰囲気に触れる機会を作り、本人が納得した上で入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や家事、野菜作り、地域の風習等に関して、職員は利用者から学び、また、利用者が力を発揮して活動できるよう支援しており、生活を共にして支え合う関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や、家族にも参加してもらう行事や作業の機会を持つことにより、協力して利用者を支える関係づくりをしている。また、利用者本人の心身の状態や生活について、通院時や面会時等を利用して家族と情報を共有している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接等で、利用者の思いについて本人・家族・関係機関から十分に情報を収集している。また、入居後の生活の中でも折に触れて利用者一人ひとりの考え方や希望を引き出したり、生活の様子から把握し、気づきを職員間で協議している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生まれや過去の職業等の生活歴は職員個々で把握されていたが、書面で残されているものが少なく、細部において情報が共有化されていない。		職員個々が日々の関わりで知り得た情報や気づきは記録して共有化することで、より多角的に利用者を知り、その人らしい生活の支援へと活かすことができると考えられる。書面にて記録し共有する仕組みの確立が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が本人・家族の意見や要望を反映させたアセスメントを行い、毎月のグループホーム会議で、また、必要時には随時職員間で協議している。併設他事業所の看護師や管理栄養士の意見や助言も参考にして、チームとして介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の定期的なモニタリング・見直しのほか、状態変化が生じた際には随時介護計画の見直しがなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前に地域で参加していたサークル活動を継続するための支援を行ったり、新たに地域の老人会行事にも加わるなど、地域の一員としての生活を継続する取り組みに力を入れ、利用者の希望に合わせて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医の継続を基本として、受診は家族に担当してもらっている。受診時に必要があれば、連絡票を作成したり、ホームから直接主治医に連絡して身体状況を伝えている。受診から戻った際は、家族から十分な聞き取りを行い、情報を共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期においては、法人内の各サービス事業所や施設と連携し、身体状況に応じた施設や医療機関へ移行することを基本的な対応としている。本人や家族の不安を軽減できるよう、早い段階から本人や家族、主治医等と協議を行い、方針の共有に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を傷つけないように配慮した関わりや支援が提供されている。また、個人情報保護等の関係法令の研修を開催している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑仕事や大正琴、将棋などの利用者の出来ることや得意なこと、また、飲酒などの個別の楽しみごとを、生活の中で一人ひとりのペースで実施できるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を活かし、利用者の希望も取り入れながら、個々の能力に合わせて利用者と職員が協働で食事作りを行っている。職員も利用者と一緒に同じテーブルで食事を摂り、楽しんでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別に自立に向けた支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体に障害があっても入浴できるように、浴室には十分な広さがあり、手すりなど設備面での工夫がなされている。1日おきに入浴する利用者が多いが、希望に合わせて毎日でも入浴が可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや野菜作り、食事の下ごしらえ、ゴミ出し、テーブル拭きなどの役割に加え、縫い物や趣味など利用者一人ひとりの出番や楽しみごとが見出されるよう、場面作りの支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1回近所のスーパーに買物に出かけている。その他、散歩や地域の行事への参加など、利用者の個別の希望に対しても支援がなされている。また、複合施設であるという利点を活かし、併設他事業所を利用している友人を訪ねる等、事業所間の交流機会も持っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体として身体拘束はしない方針である。研修会も定期的に行われ、職員も身体拘束の弊害等を理解し、身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは建物の4階にあるが、エレベーターは自由に利用することができる。日中は玄関に鍵をかけることはなく、利用者は自由に出入りすることが出来る。玄関のドアには鈴を下げて、音で出入りがわかるように工夫している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時等にはすぐさま事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し、ミーティング等で話し合い予防策を検討、実践して、再発防止に努めている。また、複合施設全体のリスクマネジメント委員会でも検討する体制も整備されている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	複合施設全体での研修と、AEDの使用訓練を含めた消防署による救急法の研修を定期的実施している。日中であれば併設事業所の看護師をすぐ呼ぶことができる。夜間は、併設事業所の宿直職員の協力に加え、緊急当番職員を定め、緊急時の対応体制を整えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回、併設事業所と合同で避難訓練を実施しており、夜間想定訓練も行っている。ホームにはスプリンクラーや警報装置等が設置され、複合施設全体や法人全体で協力体制が構築されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設他事業所の管理栄養士の指導を受け、栄養バランスに考慮した献立で食事の提供がなされている。また、水分・食事の摂取量と合わせて体重を把握して、個別に必要な支援がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>鉄筋コンクリート造りであるが、木目の温かみのある内装である。共有空間は十分なスペースが確保されており、食堂脇には畳のコーナーが用意され、利用者は好きな場所で過ごすことができる。懐かしい雰囲気装飾によって会話も弾み、季節に応じた装飾も工夫され、居心地のよい空間になっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋作りを利用者本人、家族と協力して、その人らしい居室づくりを行っている。居室にはタンスや衣桁、ベッドなど馴染みの家具を持ち込んだり、手作りの物品を飾るなど、利用者それぞれが落ち着いて過ごせるよう環境づくりを支援している。</p>		